

# お父さんも いっしょに遊ぼう!

「いっしょにあそぼう!」——休みの日のお父さんに子どもはワクワク。「よし!〇〇してあそぼう!」とすぐに遊んでくれるお父さんいれば、「なにをあそぼうか?」と考えてしまうお父さんもいるかもしれません。子どもといっしょに遊ぶ——難しく考えることはありません。気軽に、簡単なことでもいいです。さそわれるままに、子どもの気持ちになっていっしょに過ごせばいいのではないのでしょうか。子どもの表情やしぐさ、動きなどを見ていると、いろいろな発見やおどろきがあると思います。一日一日、成長していく姿を感じることができます。

「じゃあ、なにをあそぼうか?」。「こどもの城」では、たくさんのお父さんが、お父さんパワーを生かして、いろいろな遊びを楽しんでいます。

## 子どもといっしょに楽しむプログラムがいっぱい

(イクメン)〈子育てPAO〉(父親の子育て)などの言葉を新聞・雑誌、テレビなどでよく目にするようになりました。核家族化が進み、共働き家庭も多くなった今、「男女共同参画」への理解が進むなかで、お父さんが家事や育児へ参加する場面が増えてきました。

〔こどもの城〕が開館した26年前には、多くのお父さんはいすにすわって、子どもとお母さんが遊ぶ姿をながめていました。最近は、いろいろなプログラムに参加して、子どもといっしょに遊びを楽しむお父さんが多くなってきました。



〔こどもの城〕には、子どもといっしょに遊びたいというお父さんのために、「おすすめプログラム」を集めた「お父さんのあそび子育てプログラム」があります。特別なプログラムだけでなく、ふだんの活動のなかにも、お父さん(もちろん、お母さんも)と子どもがいっしょになって楽しめる「あそびのプログラム」がたくさんあります。

## お父さんの“とくい”を生かして遊んでみる

運動がとくいなお父さん、機械いじりならまかせておけというお父さん、工作が大好きなお父さん——〔こどもの城〕のいろいろなところで、お父さんの“とくい”なことを生かして、子どもと楽しく遊んでいます。子どもたちも、いっしょに遊んでくれるお父さんの姿をみて、うれしそうに顔をしています。

子育て支援に取り組んでいる小児保健のスタッフは、「お父さんの好



## “ガキ大将”のころを思い出してスポーツ遊び

「ヨイショ」と、お父さんの声。同時に「キャッキョウ」と笑う子どもの声。お父さんの体をよじ登ってかたまたまできた子どもを、体のまわりをぐるぐる回しながら、床に降りしていきます。お父さんならではのダイナミックな動き。体育室で行われた「お父さんと運動あそび」の一場面です。

お父さんが子どものころの遊びを教えてもらって、みんなで遊びました。お父さんをおににした「けいどろ」や「かんけり」に、子どもたちは大はしゃぎです。「お父さんはけいこう教えるのが好き」と体育スタッフ。「ガキ大将」のころを思い出しているのかもしれない。土・日曜日、祝日に行われている運動遊びのプログラムのなかでも、おりにふれて、親子でふれあって遊ぶことができます。



## “機械いじり”は、まかせておけ!

身の回りの電化製品を分解してみる「機械の中を見よう」(小学生ラボ)。身近に使っている「機械」の中が、どのようにできているかを、こわれてしまった機械を分解して調べてみます。お父さんといっしょにプリンターを分解していました。ドライバーを使ってネジをはずしていきますが、どうしても回らない固いネジが……。ここはお父さんの出番。グッと力を入れると、簡単に回って、はずすことができました。機械に強いお父さんといっしょに、あきらめなく最後まで分解していました。はずした歯車やお気に入りの部品は、「宝物」に。なかには、熱中してドライバーを放さないお父さんもいました。

「小学生ラボ」(毎月1回、土・日曜日に開催)は、小学生以上の子どもを対象にしていますが、親子で楽しむ姿も……。

……きなこと、とくいなことのために、子どもの好きなことも必ずあります。(イクメン(育men))を、家事や子育てをする父親というように考えるのではなく、サッカーや釣りなど父親が好きなことを子どもといっしょに楽しむことも(イクメン)と考えていいのではないのでしょうか」と話します。

お父さんは、子どもの笑顔を見ようといういろいろなことを考えるのかもしれない。まずは、お父さんが好きなことを、無理のないように子どもといっしょに遊んでみてはどうでしょうか。

## お父さんのくつ、わたしのくつ

造形スタジオの親子コーナーでは、クシャクシャにもんだ色画用紙を足にがぶせて、自分の足の大きさにあわせてくつを作る「ドカドカくつ」。親子それぞれに作ります。大きなくつと小さなくつができたら、いろいろな色や厚さの紙などを使って、自由にがざりつけて、オリジナルのくつを作ります。「お父さんの足、大きい!」「そんなに小さな飾り、はきみて器用に切るなあ」。そんなことを話し合いながら、「ドカドカくつ」を作っていきます。お父さんは子どもが作っているくつを、子どもはお父さんの作っているくつをチラチラ気にしていました。



造形スタジオの「親子コーナー」は、親子で造形遊びを楽しむことができます。

## 家族の“WA”からみんなの“WA”へ

子どもは音楽遊びが大好きです。音楽ロビーでは生バンドの演奏に合わせて、親子のふれあい音楽を楽しむ「あそびでつくる家族のWA!」が行われました。指と指で作るちいさな“WA”から、親子みんなで手をつないで作る大きな“WA”へ。最後はたがいに、くすぐったりつまんだりしてふれあい遊びを楽しみます。

つぎは、音楽ロビーいっぱい広がって、みんなで大きな“WA”に。縮んだり広がったりして遊んだ後は、子どもだけで“WA”を作り、電車のように進みます。行く手には、お父さんお母さんが作る、ふわふわの布でできた、たくさんトンネルがまっています。

音楽ロビーに集まった家族みんなが楽しむプログラム。親子の“WA”から、家族と家族の“WA”へ広がっていく、幼児から参加できる“きずな”のプログラムです。

音楽ロビーでは、親子で楽しめるいろいろな音楽遊びを行っています。



## 各地に〈父親の子育てサークル〉が生まれている

保育所の送り迎えや学校行事などをきっかけに、お父さん同士の交流がはじまる(パパ友)、つながりが広がって〈父親の子育てサークル〉へと発展するケースも。児童館・児童センターや子育て支援センターの呼びかけでできることもあります。交流会やイベントなどをとおし、子育てを支援するだけでなく、地域とのつながりも深める活動は、多くの注目を集めています。

〔こどもの城〕でも、東京周辺で活動している〈父親の子育てサークル〉に声をかけて「おとうさんのあそび市」を平成23年11月15日に開催しました。6つのグループが、遊びのプログラムを持ち寄り、〔こどもの城〕のスタッフも参加して、お父さんたちが中心となって運営する「遊びの市場」になりました。参加した〈父親の子育てサークル〉は、たがいに情報を交換して交流を深めると同時に、多くの人にその活動をアピールしました。